

# 京都

ろろつきまわりんぐ

# 峠道<sup>🚲</sup> サイクリング

in 京都市

## 🚲 はじめに

遠出があまりできないこのご時勢、久しぶりに都会の喧騒を離れて自然に触れてみたいとは思わないだろうか。または外出頻度が下がったことで体力の衰えを感じてはいないだろうか。散々巡り巡った京都に飽き飽きしてはいないだろうか。そうした読者のみなさまにお送りしたいのがこの企画である。不要不急の都道府県を跨ぐ移動は控えるように、ならばいっそのこと京都市すら出ずに大自然を、非日常感を味わってしまおうではないか。今回は京都市内の峠道を3つ紹介する。それぞれの峠については以下の要素を記す。(ふーぷ)

標高：各峠の最高地点のおよその高さ（百万遍は標高55m）

距離：百万遍からのおよその距離

（所要時間は往復平均10km/h、ないしはそれ以下の速度で計画することを推奨）

オススメ度：距離や必要な体力などのお手軽さ、周辺の観光スポットの良さなどから筆者が主観的に判断

※標高および距離は地理院地図をもとに表記。



## 注意

峠に行くにあたっては自転車を乗るのに基本的な注意と安全装備を忘れないで欲しい。

- ・タイヤの空気圧の確認
- ・ブレーキの確認
- ・ライトの確認
- ・ヘルメット等の着用
- ・安全な速度での走行
- ・交通法規の遵守

そして行く道について下調べをして、どれだけ時間がかかってどれくらい体力が必要かというのを考えておいた上で、当日の天候等の状況に応じて催行の可否を判断すると良いだろう。

また舗装された道とはいえ虫や獣もある程度いること、山に入ることには変わりはないので電波が入らないことなどを見越しておくのも大切だ。

### しんめいとうげ 神明峠

標高 500m

距離 22km

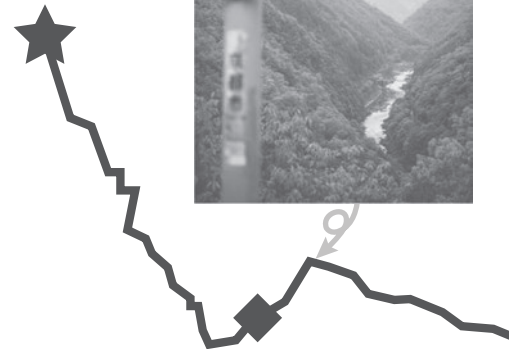
周辺観光 越畑(こしはた)と  
檜原(しきみがはら)  
の棚田

オススメ度 ★★★★★☆

嵐山から六丁峠という小さな峠を越えて保津峡を抜けた先にある峠道。「神明峠」という看板がある地点は標高400mだが、そこから更に登った檜原にほど近い地点が本当の頂上だ。六丁峠を越える必要もあって体力はそれなりに必要だが、京都市内で棚田を見られる貴重なスポットだ。息を切らしながら谷あいの長い長い山道を行った先に突然現れる集落と広大な棚田が視界に入る時の感動は筆舌に尽くしがたい。

嵐山までの平地区間も長く、六丁峠までだけでも十二分にハードなので六丁峠を越えて保津峡で折り返すのもお勧めだ。

## 神明峠



## 保津峡

はみだし  
すてーじ

この1年間で自分がどれだけ成長できたか振り返ると成長したことが何も思いつかない。いったいこの1年間何をしていたのだろうか。

(理・1 来年度は文学部)

(今年度も文学部；編)

⇒私は1年間何をしていたのだろうか。

きょうみとうげ  
**京見峠**

標高 400m  
距離 10km  
周辺観光 道風神社  
杉坂の船水(湧水)  
オススメ度 ★★★★★

京都の街に近いながら本格的な山道を味わえるお手軽峠道。その名の通りかつては「京」を「見」るに良い峠だったそうだが今は木々に隠れて京都の街は時折顔を覗かせる程度だ。この峠で何よりもお勧めできるのは峠を越えた先にある三蹟の一人である小野道風を祀った道風(とうふう)神社と杉坂の船水である。苔むし人気のない静かな神社の境内はここが京都市内であることを忘れさせる。湧水は市街から車で汲みに来る人が居るほどの評判で汗をかいた身体を潤すのに丁度よい。

体力に余裕があれば高雄の方の寺社にも寄ってみると満足度が上がるに違いない。

**道風神社**



**京見峠**

**金閣寺**

**嵐山**



**百井峠**

ももいとうげ  
**百井峠**

標高 740m  
距離 18km  
周辺観光 峠の湧水  
大原三千院  
オススメ度 ★★★☆☆

今回紹介する3つの峠のうち唯一国道に指定されている峠道。しかしこの百井峠を通る国道477号線はいわゆる「酷道」と呼ばれる路線で、途中には「百井別れ」という特徴的な交差点がある。道路状況に関しては紹介する他の2つとほぼ変わらない。鞍馬の手前から百井峠頂上までほぼ断続的に上り坂が続き全く休憩がない。しかし行きの上り坂が長いということは帰りの下り坂も長いということだ。少なくとも10分はペダルを漕がずに風を切って走れるのはとても魅力的だ。

周りにもいくつか峠があるのでそこまで足を延ばして体力を付けるのも良いだろう。

**おわりに** 

春は新緑を、夏は避暑を、秋は紅葉を求めて。山はこれからの季節が本番。もし遠くへ自転車で行ってみたいとなったなら試しに貴船や鞍馬、大原などへ行ってみてはいかがだろうか。電車やバス、車で行くのととはまた違った体験ができるはず。無駄に疲れ、無駄に時間を食う、とも思えるだろうが着いたときの達成感や満足感は圧倒的だ。

安全な自転車旅を。

**百万遍**



はみだし  
すてーじ

読者カード出したことあります！  
⇒ご投稿ありがとうございます！

(理・4 一沫模様)  
(これからも皆様からの投稿お待ちしております；編)